

適用病害虫と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	石灰硫黄合剤を含む 農薬の総使用回数
りんご	腐らん病	10 倍	休眠期	—	散布	—
	モニリア病・うどんこ病	40～140 倍	—			
	黒星病	7 倍	発芽前			
もも	縮葉病・胴枯病・黒星病					
うめ	縮葉病	8 倍				
すもも・あんず	ふくろみ病	140 倍	—			
なし	黒星病	7 倍	発芽前			
果樹類	ハダニ類・サビダニ類	80～200 倍	夏期			
		20～40 倍	冬期			
落葉果樹	カイガラムシ類	7～10 倍	発芽前			
	ハダニ類・越冬病害虫	7～40 倍				
くり	芽枯病	20～40 倍				
かき	黒星病・うどんこ病	100 倍	—			
びやくしん	赤星病	40 倍				
麦類	赤かび病	50～60 倍				
	さび病・うどんこ病	40～140 倍				
みかん	ハダニ類・そうか病・黒点病	80～200 倍	—			
	かいよう病	冬期 20～40 倍	発芽前			
	ヤノネカイガラムシ	60～80 倍	—			
茶	ハダニ類	80～200 倍	夏期			
		20～200 倍	冬期			
	サビダニ類	80～200 倍	夏期			
		20～40 倍	冬期			
桑	カイガラムシ類	7～10 倍	発芽前			
	胴枯病	7 倍				
すぐり	うどんこ病	80～140 倍	—			
まつ	ハダニ類	20 倍	新梢発生前			

作物名	使用目的	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	石灰硫黄合剤を含む 農薬の総使用回数
りんご	摘花	100～120 倍	満開後	2 回	立木全面 散布	—

使い方・散布

◎展着剤を加用し、散布液調製後は速やかに使用する。

効果・薬害等の注意

◎りんご腐らん病への休眠期散布は、秋季根雪前および春季発芽前に枝幹が十分ぬれるように行なう(いわゆる胴洗い黒木消毒)。

散布適期は地域により異なるので、防除基準に従い病害虫防除所等関係機関の指導を受けて決める。

◎りんごの摘花剤に使用する場合

- ・第1回散布は満開期(腋芽を除く中心花および側花の7~8割が開花した日)とし、第2回散布は前回より3~4日後に散布する。
- ・天候が悪く開花が長引く時は、第1回散布を満開2~3日後にしたり、所定の回数より1~2回散布を追加する。
- ・ミツバチを放飼している園では、散布前に回収する。
- ・本剤の摘花剤としての使用に当たっては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

◎高温で日照の強い時は、早朝か夕刻に散布する。また高湿で散布薬液が、乾燥しにくい時や樹勢の弱い園では濃度をうすめにするか散布をひかえる(薬害)。

◎落葉果樹に対する発芽後の散布は、散布濃度、樹勢、気象などの諸条件に注意する(薬害)。

◎茶の摘採前50日以内の散布はさける。特に春季に番茶用として摘採する茶園では50日前であっても散布しない(品質低下)。

◎強アルカリ性であるのでアルカリ性で分解しやすい薬剤(有機リン剤など)とは混合しない。

◎強アルカリ性の薬剤(ボルドー液など)、および銅製剤、マシン油乳剤との混用はさける。

◎ボルドー液散布後、本剤を使用する場合は2~3週間以上間隔をおいて散布する。

◎マシン油乳剤散布後は、1ヶ月以上間隔をおいて散布する(付着性劣化)。

◎桑に使用后30日間は桑葉を給餌しない(蚕毒)。

◎自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石にかからないようにする(塗装汚染・変色)。かかった場合は、速やかに水洗する。

◎強アルカリ性のため、噴霧器、その他の器具などを腐食しやすいので、作業後は使用した噴霧器、その他の器具を水で十分洗浄する。

◎適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤をはじめて使用する場合は使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

◎0℃以下の場所に保存すると結晶析出の恐れがあるので使用前に温かい室内に移動するか所定量の水で希釈して、結晶を溶解させてから使用する。

安全使用上の注意

◎誤飲に注意。誤って飲み込んだ場合は吐かせないで、直ちに医師の手当てを受けさせる。使用中に異常を感じた場合は、直ちに医師の手当てを受ける。

◎原液は強アルカリ性のため、散布液調製時には保護メガネを着用し薬剤が眼に入らないように注意。眼に入った時は、直ちに十分に水洗し眼科医の手当てを受ける(強い刺激性)。

◎原液は強アルカリ性のため、散布液調製時には不浸透性手袋を着用し薬剤が皮ふに付着しないように注意。皮ふに付いた時は、直ちに石けんでよく洗い落とす(強い刺激性)。

◎散布時は保護メガネ、農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン、長袖作業衣などを着用する。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがい・洗眼をする。作業時の衣服などは他と分けて洗濯する。

◎酸性物質(リン酸第一石灰、リン酸第一加里などの酸性肥料等)との混用・混入は絶対にしない(有毒な硫化水素ガス発生)。

- ◎街路、公園等で使用する場合、散布中及び散布後(最小限その当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立て、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- ★空容器はほ場などに放置せず、3回以上水洗し適切に処理する。
洗淨液はタンクに入れる。
- ◎魚毒性…河川、養殖池等に飛散、流入しないように注意して使用する(甲殻類)

保管…密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼な所。